

寂室元光禅師の語録 大矢義高氏訳)によれば **妄念を即座に取り払えばそこには澄みきった鏡の面のよう**、さすれば浄土の三尊は、ただちに姿を現じたもう、もしも、ちまちまと西方を拜んでばかりいては、花咲く池も躍あめいく木々も見えはせぬだろう。」と、鏡のような自分であれば相手を正しく見て取れます。又、禅師は 依道の修行者は、**先ず身・口・意の働きを慎重にし、貪・瞋・痴を除き去り、名声を浮雲と同じく見、利益を糞土のごとく棄てねばならぬ。言葉を吐くときは詐りやでたらめを去るようにし、行動に出る時は着実さと折り目正しきを旨とし、世上のさまざまな悪況も、すべて夢まぼろしや空花の世界の事と見て取り、然る後に、自己の未だ明らかならざるを以って、常に自ら勉励せよ」と、**欲望の深さに心の闇が正道を隠します**。古人は **我を生む者は親なり、我を成す者は師友なり**」と、即ち、**我々の人間形成は師と友にあると言う**。習い事や学校教育の場での先生はみえますが人生の歩を教えてくれる、あるいは手を携たずさえて苦楽を共にし、話の通じる友達はなかなかいないと思います。山田無文禅師が中国に行かれた時に **胸は祖国に在り、眼は世界に開く**」と掲げてあったそうです。今や大学の卒業式で国歌の斉唱をしないのが当たり前のようですが国旗の掲揚と合わせ日本国民である自覚が足りないのかと思えるのです。オリンピックなど見れば一目瞭然、優勝すれば国の榮譽を皆で讃たたえ、その国の国旗を掲げ国家を斉唱するのです。国旗国歌の無い国はありません。世界で活躍するにも国籍が重要です。無文禅師は 大間を尊重せよとおしえられると自分を大事にすることだと受け取り、個人の権利と自由を守れといわれると、俺が何をしてもかまわんことだと考え、自我を自覚せよとおしえられると、俺の幸福を俺がしっかりとつかむことだと解釈するのであります。そしてきわめてせまい個人主義、利己主義者ばかりが育たのではないでしようかと、**禅師は 大間尊重**」とは此の世の中に、**一人でも粗末にされる人、見捨てられる人、さげすまれる人があってはならないこと**でしよう。個人の自由と権利を守れとは、人さまの自由と権利をおかしてはならないことというこいでしよう。」とおっしゃいました。**世は一人で生きられず、共に生きていくことを考えて行動しましょう**。**

昔は 三つ子の魂百まで」といい、岸見一郎氏は 自分についての見方、世界についての見方は十歳で止まってしまうと、アドラーは四五歳で止まると言い、その人のライフスタイルが決まる年齢を推察してみえます。子供は三歳頃から自我に目覚めて往きます。自己主張が強くなってくるのです。この時期の養育が非常に大切に成ると言う事です。一度の人生です。過ちを犯させない為にも、家庭における幼児教育をしっかりやるということ事です。外国語の習得も必要ですが日本は古い歴史の上に成り立っています。日本語も儘ままならぬようでは問題外です。話しをするにしろ、書くにしろ言葉は自分の思う事が正確に伝わってこそ価値のあるものです。書かれたものは後世誰が読んでも理解でき、愛される内容になってほしいと思います。 **仏法の道を踏まえ、日本の光で世界を照らして、明かるく**

平和で住みよい社会にしましょう。

二十八年六月一日

善入院油掛地藏尊